

令和6年度

学 力 向 上 プ ラ ン

【後期】

夢を実現するための基礎・基本を学ぶ学校



上尾市立上平中学校

上尾市立上平中学校 学力向上プラン「グランドデザイン」

学校教育目標

自立 共感 協働

学校課題研究主題

「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導方法の工夫」

～ICTとその他の教材を効果的に組み合わせ～

学力・学習状況調査の結果

R6 全国学力・学習状況調査	R6 埼玉県学力・学習状況調査	R5 上尾市立小・中学校学力調査
<ul style="list-style-type: none"> 国語では、県および全国の平均正答率と同等か上回った。「書くこと」に関しては県および全国平均正答率を2ポイント下回っており、問題形式でも記述式の正答率を下回っているため、書くことを苦手としていることが読み取れる。 数学では、指導要領の領域では、「B図形」「Dデータの活用」において、県および全国の平均正答率を上回った。評価の観点の「思考・判断・表現」の無解答率が県および全国の平均正答率を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 2学年3学年ともに、全教科において上位に属する生徒と下位に属する生徒は学力を伸ばしているが、中間に属する生徒が伸び悩んでいる傾向にある。1学年は、全体的に学力が高く、国語・数学ともに学力レベルは、埼玉県平均を大きく上回っている。 「規律ある態度」達成目標では、「話を聞き発表する」「集団の場での態度」が埼玉県平均を大きく上回っている。1学年は他学年に比べて達成度が低く、特に身の回りの整理整頓に課題がある。 	<p>国語：1学年は「情報の扱い方に関する事項」「書くこと」が全国平均正答率を下回っている。2学年は、全分類と全区分において全国平均正答率を上回っている。</p> <p>数学：1学年はほぼ全ての領域で全国平均を上回っている。2学年は「活用する」が全国平均正答率を下回っている。</p> <p>英語：1学年・2学年ともに全ての領域で全国平均正答率を上回っている。1学年は目標値を大きく上回っている。</p>

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
<ul style="list-style-type: none"> ①自身の考えを文章にして書いたり、文章を読んで内容を理解したりする力。 ②課題解決に向けた方策を見付ける力。 ③情報やデジタル技術を理解して、適切に活用する力。 	<ul style="list-style-type: none"> ④計画・実行・振り返りにおいて課題を発見し、解決したり新たな価値を創造したりする力。 ⑤多様な考えを伝えたり、理解したりしながら協働し、対立やジレンマに対処する力。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑥困難な課題に対して、先生に聞いたり、調べたりして粘り強く取り組み、目標を達成する力。 ⑦互いの良さを生かして協働する力。 ⑧学習の進め方について試行錯誤し、調整する力。

学力向上のための授業改善

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
<p>授業の初めにねらいを提示し、授業のまとめと生徒の振り返りに対応させ、生徒が自らの学習活動を次につなげ、新たに課題を発見できるように発問を工夫する。また、知識・技能の定着のために小テスト、ICTを活用したフラッシュカード、実技テスト等を実施する。</p>	<p>多面的な視点から物事を捉え、論理的に思考・判断・表現する力を育成することを目的に、単元・教材に応じて課題発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習、協働学習等を取り入れた授業を行う。グループディスカッション、ディベート、ワークショップ等も取り入れる。</p>	<p>上平中スタンダードによる授業規律の徹底や、生徒の自主的な学びを促すことを意識した授業を行う。実践的・体験的な学習活動を多く取り入れ、生徒自らが学びたいと思える授業を創造する。協働しながら課題解決をさせることで、生徒に成就感を味わわせ、次の学習へつなげる。</p>

本校の特色ある取組

- あいさつ運動
- K-タイム（朝学習・朝読書）の充実
- 面談（二者面談・三者面談）を通じた、積極的な生徒理解
- ICTを活用した授業、家庭学習の支援
- レインボールームの設置
- 生徒会活動の充実

家庭教育との連携

- 家庭との連携（さくら連絡網等を活用した日々の情報共有、家庭訪問、面談等）
- オンライン教材を活用した家庭学習の充実
- PTA活動の充実（美化活動、奉仕活動等）

2 学力向上を図る取組

(1) 各教科の授業における取組

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①自身の考えを文章にして書いたり、文章を読んで内容を理解したりする力。 ②課題解決に向けた方策を見つける力。 ③情報やデジタル技術を理解して、適切に活用する力。	④計画・実行・振り返りにおいて課題を発見し、解決したり新たな価値を創造したりする力。 ⑤多様な考えを伝えたり、理解したりしながら協働し、対立やジレンマに対処する力。	⑥困難な課題に対して、先生に聞いたり、調べたりして粘り強く取り組み、目標を達成する力。 ⑦互いの良さを生かして協働する力。 ⑧学習の進め方について試行錯誤し、調整する力。



教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	④	④教科書で学習した後に、教科書以外の教材を用いて、文章にまとめる課題を設定する。単元の開始時と終了時に感想を書き、その変容を見取るとともに、それを交流させて意見の深化を図る。	
社会	⑤	⑤少人数グループでの学習や話し合い活動、協働学習を展開し、班の意見の要約や自身の考えを表現する機会を充実させる。	
数学	②	②問題演習時に既習事項の確認をする。見通しのある授業を実施する。	
理科	⑤	⑤実験の予想やまとめの場面で、ICTやホワイトボード等を活用し、自分の考えを表現する力や思考する力を育成する。	
外国語	①④	①学んだ表現やそれらを網羅した初見の英文を読ませる。授業で聞いたり読んだり話したりしたことを書く活動につなげる。 ④単元計画・評価基準・Can-doリストを生徒に提示する。	
音楽	⑦	⑦パート練習やペア学習など、学習形態の工夫をする。	
美術	②	②題材において、自分の考えを基に発想や構想力を身に付けながら、自分の思いを伝え表現する機会を充実させる。	
技術	③⑤	③自分で設定した課題解決のために、PCを利用して調べ、それを発表する。 ⑤作業を協働し、共有化を図る。	
家庭	②	②自分の生活を振り返って課題を設定し、自分の生活をより良くするための改善策について、協働学習を通して考える。	
保健体育	④⑦	④スキルアップトレーニングを自分たちの力に合わせて考えさせる。 ⑦ペアやグループでコーチングを行う取組を充実させる。	
特別の教科 道徳	⑤	⑤多角的、多面的に考えさせる場面を設け、多様な考えに触れる機会を充実させる。	

A・・・取組の効果が十分に見られた B・・・今後も課題として取り組む C・・・取組を見直す

(2) 教育活動全体を通じた取組

本校の特色ある取組

- | | |
|-----------------------------|--|
| ○あいさつ運動 | ・学期当初の3日間、PTAと合同であいさつ運動を実施する。 |
| ○K-タイム（朝学習・朝読書）の充実 | ・落ち着いた学校生活のスタートを迎える。
・テスト前部活動休止期間は朝学習を可とする。 |
| ○面談（二者面談・三者面談）を通して、積極的な生徒理解 | ・学期に1回の二者面談を実施する。
・夏休み、11月に全校三者面談を実施する。 |
| ○ICTを活用した授業、家庭学習の支援 | ・大型モニター、ICT端末、板書のバランスのとれた学習指導を実施する。
・ICT端末の貸出、オンライン授業を実施する。 |
| ○レインボールームの設置 | ・なかなか教室に足が向かない生徒を支援するための教室を1、2、5、6校時に開室して教員を配置し、学習指導の補充を行っている。 |
| ○生徒会活動の充実 | ・月1回の生徒集会の実施。上中祭の企画、運営。PTAとの意見交換を実施する。 |

家庭教育との連携

- | | |
|---------------------------|--|
| ○家庭との連携（日々の情報共有、家庭訪問、面談等） | ・生徒の欠席時における、電話連絡、またはさくら連絡網を活用した情報共有を図る。必要に応じた家庭訪問を実施する。 |
| ○オンライン教材を活用した家庭学習の充実 | ・まなびポケット（スクールタクト）を活用する。
・Googleクラスルームを活用する。
・eライブラリーを活用する。 |
| ○PTA活動の充実（美化活動、奉仕活動等） | ・あいさつ運動、登校指導を実施する。
・10月12日（土）上中祭を実施する。
・全体奉仕作業、安全点検を実施する。 |